



# 東京湾環境マップ

～生き物のいる東京湾～

いままでの実施日と調査機関・地点数  
 平成20年7月2日：47機関、605地点  
 平成21年8月5日：148機関、749地点  
 平成22年8月4日：131機関、750地点  
 平成23年8月3日：139機関、820地点  
 平成24年8月1日：154機関、903地点  
 平成25年8月7日：174機関、799地点  
 平成26年9月3日：167機関、689地点  
 平成27年8月及び9月：荒天のため中止  
 平成28年8月3日：156機関、608地点  
 平成29年8月2日：176機関、1039地点  
 平成30年8月1日：204機関、649地点  
 令和元年8月7日：211機関、1091地点  
 令和2年8月5日：177機関、989地点  
 令和3年9月16日：161機関、962地点  
 令和4年8月3日：182機関、987地点  
 令和5年8月9日：179機関、877地点  
 令和6年8月7日：170機関、877地点  
 令和7年8月6日：157機関、767地点

※この図表は令和7年度までの調査結果に基づいており、従来の調査結果は除く  
 従来の調査結果は除く  
 従来の調査結果は除く

東京湾の環境再生は、「海」だけではなく、東京湾へ注ぎ込む「川」を持つ「流域」にも深い関係があります。私たちは、このことを一人でも多くの皆さんに知っていただき、東京湾の環境に対する興味や関心をもってもらうために、平成20年度から東京湾環境一斉調査を行っています。これは、毎年度、海（東京湾）と陸（流域）で、市民の方や企業、研究機関、行政機関等が協力し、一斉に水質や生き物の調査を行うもので、今年度で18年目を迎えました。これまでの調査で得られた貴重なデータは、東京湾の環境改善に活用されています。

本マップは、本調査に参加された方々から提供いただいたデータをもとに、下記団体が連携して計画立案、編集発行するものです。本年度は「生き物のいる東京湾」をテーマに、東京湾の環境の現状について、東京湾生物情報とりまとめおせっ会が主宰する生息生物の確認調査の結果をご紹介します。こうしたデータを元に、東京湾再生に向けた行動の実現を考えていくことが大切だと思います。

## 令和8年（2026年）3月 Vol.20

東京湾再生推進会議モニタリング分科会  
 九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会  
 東京湾岸自治体環境保全会議  
 東京湾再生官民連携フォーラム（主担当：モニタリングPT）  
 特別協力：東京湾生物情報とりまとめおせっ会

## 東京湾再生に向けた連携

国、地方公共団体から構成される「東京湾再生推進会議」では、東京湾の環境改善に向けた様々な取組みを推進しています。令和5年度には、今後10年の再生行動の指針となる「東京湾再生のための行動計画（第三期）」が策定されました。今後も、東京湾再生官民連携フォーラムと協力し、民間組織等を含む多様な主体の連携の下、取組を進めてまいります。



### 東京湾の再生のための官民の協働体制

#### 東京湾再生推進会議

○都市再生プロジェクト第三次決定（平成13年12月）に基づき、平成14年2月に設置。  
 ○令和5年3月に「東京湾再生のための行動計画（第三期）」を策定。

#### 東京湾再生官民連携フォーラム

○多様な主体の参画による議論の活性化・多様化を図るため、平成25年11月に設立。  
 ○フォーラムでは、東京湾再生に係る課題や科学的知見や取組に関する情報を共有。

協力

#### 【メンバー】

○関係省庁  
 内閣府地方創生推進室、国土交通省、海上保安庁、環境省、農林水産省、林野庁、水産庁  
 ○地方自治体  
 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市

#### 【メンバー】

○学識者、企業、NPO団体、行政関係者など  
 登録会員数 個人会員347名、団体会員142団体（令和6年10月現在）  
 【プロジェクトチーム他】  
 6のプロジェクトチームと2つの特別チームが活動中（令和7年1月現在）

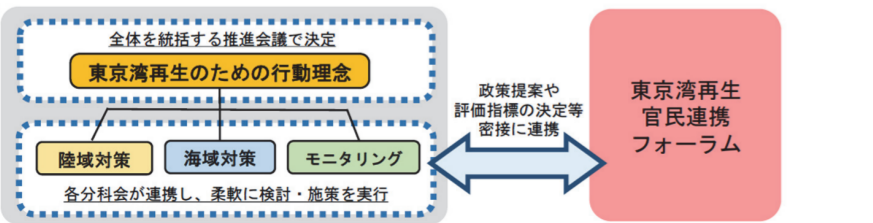
### 東京湾の再生のための行動計画（第三期）について

東京湾再生推進会議は、令和5年3月、令和5年度から概ね10年後の目標達成を目指す「東京湾再生のための行動計画（第三期）」を策定・発表しました。

目標 快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい豊かな「海」を多様な主体が協力しあうことで取り戻す。  
 ～流域3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出～

豊かな水環境の実現 楽しく、親しみやすい東京湾の創出 活動の環(わ)の拡大

#### 体制等



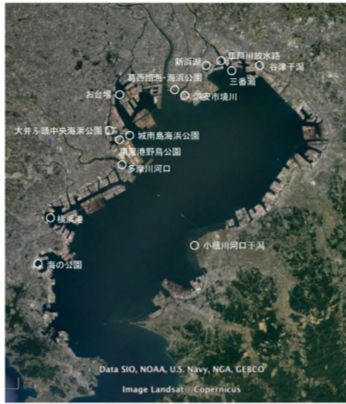
# おせっ会の活動（R2年）

### 【活動の概要】

令和2（2020）年度に、コロナ感染防止のため参加者間で接触度の高い市民参加による生物調査が困難となり、東京湾再生官民連携フォーラムとしては、市民による生物調査の呼びかけを行えませんでした。しかしこのような状況のなかでも、湾岸の自然観察・環境学習に関わる施設や団体では、定期的な活動としてスタッフを中心とした生物調査が引き続き実施されていました。これらの調査結果から東京湾岸の生物生息状況の把握をはかるため、風呂田利夫氏、風間真理氏、小倉久子氏の3氏が「東京湾生物情報とりまとめおせっ会（以下、おせっ会）」を組織し、湾岸の施設や団体に声がけをして、身近で子どもたちをはじめとする市民に関心の高い生物であるヤドカリとカニ類についてリストアップし、その出現確認（有/無）に関してのアンケート調査を実施し、東京湾環境一斉調査の結果として報告しました。以後、おせっ会の活動として毎年の生物確認調査結果が報告されており、今回は、その概要を再掲し、最新の東京湾における生物の生息状況を概観します。なお、参加団体・報告者や具体的確認生物の全記録については、東京湾再生推進会議による東京湾環境一斉調査報告書に収録されていますのでよろしければ、ご参照下さい。

### 【R2（2020）年の調査結果抜粋】

13施設・団体から計30地点の情報が集められましたが、観察地の空間スケールを考慮し14の水域毎に再集計しました。その結果、ヤドカリ類7種、カニ類44種の出現報告がありました。またこれまで湾口部に生息が限られていたテナガツノヤドカリとスナガニが2020年では湾奥に分布を広げていたことが確認されました。テナガツノヤドカリは2019年から千葉ポートパークや三番瀬、谷津干潟で生息が確認され始めましたが、スナガニの三番瀬と葛西海浜公園での出現は初記録と考えられています。



集計に用いた14の水域（背景はGoogle Earthより）

令和2年に確認されたヤドカリとカニ類

区分	確認された種
10以上の水域で報告された種（7種）	ユビナガホンヤドカリ、マメコブシガニ、イシガニ、アシハラガニ、イソガニ、タカノケフサイソガニ、コメツキガニ
7以上で生息が報告された種（10種）	テナガツノヤドカリ、イッカクモガニ、タイワンガザミ、クロベンケイガニ、アカテガニ、カクベンケイガニ、モクスガニ、ケフサイソガニ、チゴガニ、ヤマトオサガニ

# おせっ会の活動（R4年）

### 【活動の概要】

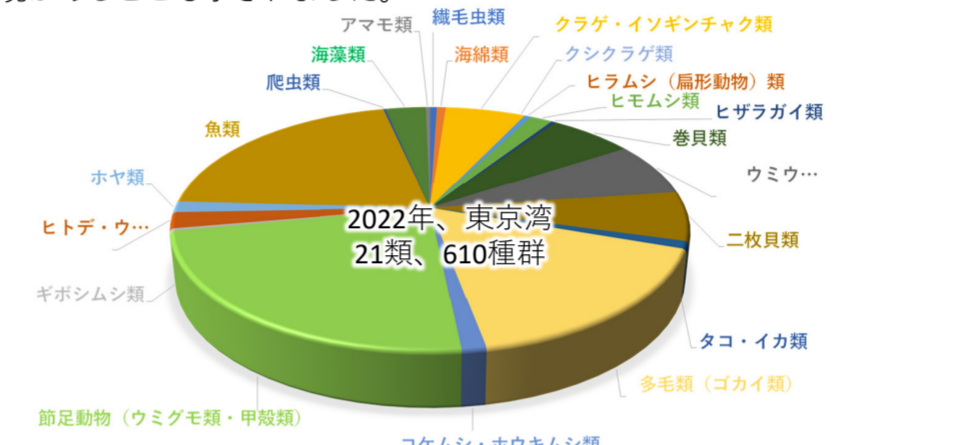
令和4（2022）年には、生物確認調査の対象種を拡大し、ベントスと魚類で全ての観察種情報の提供を依頼しました。ただし、プランクトンについては、顕微鏡的観察が必要なため、市民レベルでは把握が困難として除外されています。

### 【R4（2022）年の調査結果抜粋】

14施設・団体から計20地点の情報が報告され、全体で610種群の出現報告がありました。最も多かったのは節足動物（144種群、23.6%）で、続いて魚類（126種群、20.6%）、多毛類（102種群、16.7%）となっていました。今回の報告では、外来種である（ハクライオオギガニ）が東京湾内で、外洋海岸性の種であるフナムシ、クロフジツボ、ヒライソガニなどが三番瀬で見られるなど、湾奥まで外洋性の生物の侵入があることも明らかとなりました。また、汽水性の稀少性の高いカニであるリアアケモドキが湾東岸の人工汽水水路群から報告され、人工的な環境でも希少生物が生息する貴重な環境があることも示されました。



報告された20地点（背景はGoogle Earthより）



令和4年に確認された生物の類毎の種群数

東京湾生物群集は、外洋性、内湾性、汽水性の種に加え、海と川、湖沼との生物の広い水域環境間の移動と定住をもとに成立していることが示され、生物群集の保全再生のためには、各地の環境再生とともに、生物の往来を促す連続性も必要性も示されました。また、今回の報告者は、学術的な専門職の方は含まれておらず、民間ベースの高い生物分類調査能力の高さ、人的資源の豊富さも示されました。ただし、今後の生物調査継続にあたっては調査許可や運営に対しての行政の許可手続さらには経済的、人材の支援の必要性も痛感されています。

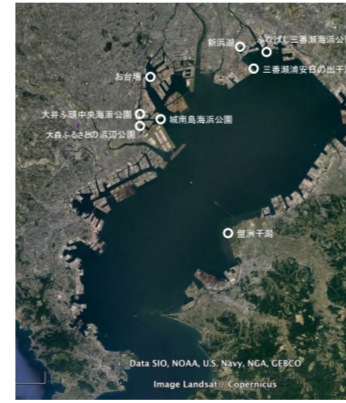
# おせっ会の活動（R3年）

### 【活動の概要】

令和3（2021）年には、前年から開始されたおせっ会による生物確認調査について、日頃から観察していたヤドカリやカニ類が、思いのほか多くの水域で生息し、それらが関心を持って観察されていることが示されました。多くの機関や団体で活動する方々が、日頃から干潟を中心とした海岸生物の精度の高い観察をしていたことに深い敬意を表すとともに、アンケートの回答に当たっては機関や団体内さらには活動委託組織の理解が必要とされるケースもあり、情報提供を受けるに当たってはできるだけ簡便かつデータ集計の社会的意義への理解浸透の必要性も認識されました。そこで、ヤドカリとカニ類に加えて、二枚貝類についてもリストアップし、その出現確認（有/無）に関してのアンケート調査を実施するとともに、その年に発生した環境イベント（青潮にともなう魚類のへい死）についても報告をいただきました。

### 【R3（2021）年の調査結果抜粋】

アンケートの依頼が遅れたこともあり、報告団体が減少してしまったものの、4施設・団体から計8地点の情報が集められ、報告のあった8地点では、希少種を含む、ヤドカリ類6種、カニ類38種、二枚貝31種の出現報告がありました。近年湾奥部での生息が確認されていたテナガツノヤドカリは2021年も三番瀬や東京港での生息が確認されました。しかし、昨年報告のあったスナガニは、三番瀬での生息も確認されませんでした。今回ハクライオオギガニの生息が東京港で見られましたが、これは最初の確認地である横浜港以外での出現となりました。



報告された8地点（背景はGoogle Earthより）

令和3年に確認されたヤドカリとカニ類

区分	確認された種
6以上の地点で報告された種（9種）	ユビナガホンヤドカリ、カクベンケイガニ、ホトトギスガイ、ムラサキガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、マガキ、ホンビノスガイ、アサリ
1地点でのみ報告された種（25種）	サンゴヨコバサミ、ホンヤドカリ、トゲノコギリガザミ、ハクライオウギガニ、シワオウギガニ、スペースオウギガニ、ショウジンガニ、フタバカクガニ、ベンケイガニ、ヒメアシハラガニ、イソガニ、タカノケフサイソガニ、スナガニ、オオシロビシノ、ギボシマゲガニ、アカホシマゲガニ、ラスパンマゲガニ近似種、オウギウロコガイ、ガタツキ、トリガイ、サクラガイ、ヤマトシジミ、バカガイ、ヒメマスオ、エゾマテガイ

# おせっ会の活動（R5年）

### 【活動の概要】

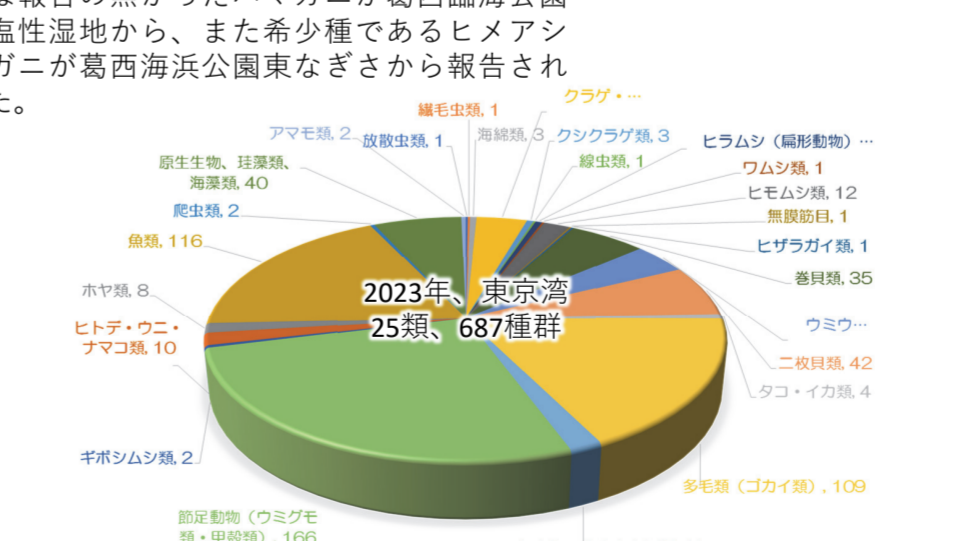
令和5（2023）年には、全ての生物群について生物確認調査の対象種とし、ベントスと魚類のほか、プランクトンについても情報提供を依頼しました。また、特に注目すべき生物の出現、観察について追加報告いただきました。

### 【R5（2023）年の調査結果抜粋】

13施設・団体から16の海岸、計24の報告があり、全体で687種群の出現報告がありました。2022年の報告と合わせると、この2年間で799種群が確認されたこととなります。2023年で最も多かったのは節足動物（176種群、26%）で、続いて魚類（139種群、20%）、多毛類（110種群、16%）でした。今回の報告で多く報告されたのは、巻貝のアラムシロ（21報告）、二枚貝のホトトギス（21報告）であり、これまで湾内では小櫃川河口以外では報告の無かったハマガニが葛西臨海公園内の塩性湿地から、また希少種であるヒメアシハラガニが葛西海浜公園東なぎさから報告されました。



報告された16海岸、24報告



令和5年に確認された生物の類毎の種群数

→葛西臨海公園野鳥園下ノ池（感潮池）のヨシ群落内で報告されたハマガニ  
 多摩川河口六郷干潟で報告されたヒヌマヒトトンボ

# おせっ会の活動（R6年）

### 【活動の概要】

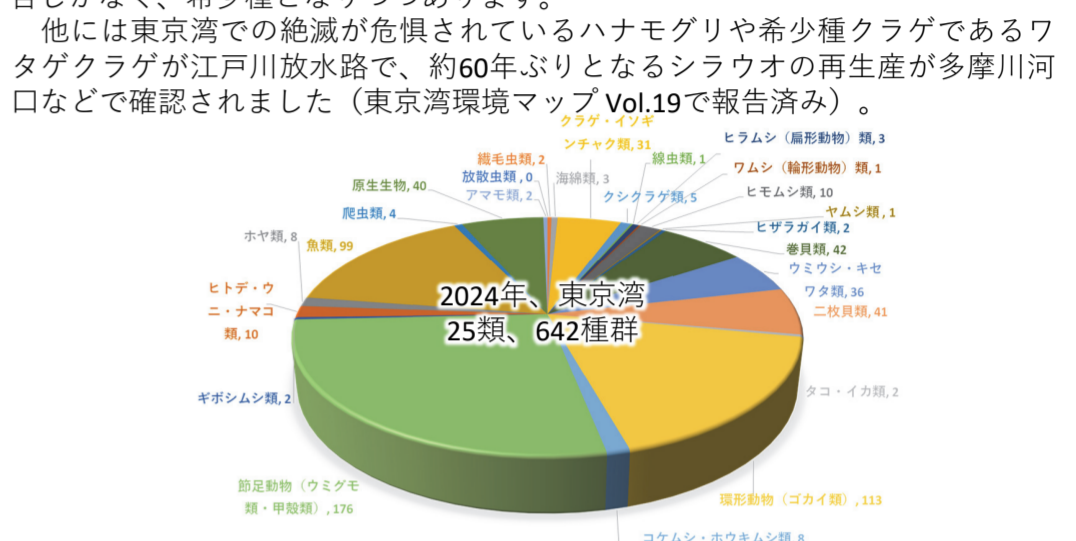
令和6（2024）年には、全ての生物群について生物確認調査の対象種とし、ベントスと魚類のほか、プランクトンについても情報提供を依頼しました。また、特に注目すべき生物の出現、観察について追加報告いただきました。

### 【R6（2024）年の調査結果抜粋】

12施設・団体から21の海岸、計24の報告があり、全体で642種群の出現報告がありました。2022年からの報告と合わせると、この3年間で877種群が確認されたこととなります。2024年で最も多かったのは節足動物（176種群、27%）で、続いて環形動物（113種群、18%）、魚類（99種群、15%）でした。今回の報告で多く報告されたのは、二枚貝のアサリ（22報告）、ついでマガキ（21報告）であり、逆に、外来二枚貝のムラサキガイは3報告しなく、希少種となりつつあります。他には東京湾での絶滅が危惧されているハナモグリや希少種クラゲであるワタゲクラゲが江戸川放水路で、約60年ぶりとなるシラウオの再生産が多摩川河口などで確認されました（東京湾環境マップVol.19で報告済み）。



報告された21海岸、24報告



令和6年に確認された生物の類毎の種群数

→多摩川スカイブリッジ建設に関わる環境モニタリング調査と研究者の連携の協働で多摩川河口でのシラウオ個体群の再生産が確認された。写真は、川崎市提供

# おせっ会の活動（R7年）

### 【活動の概要】

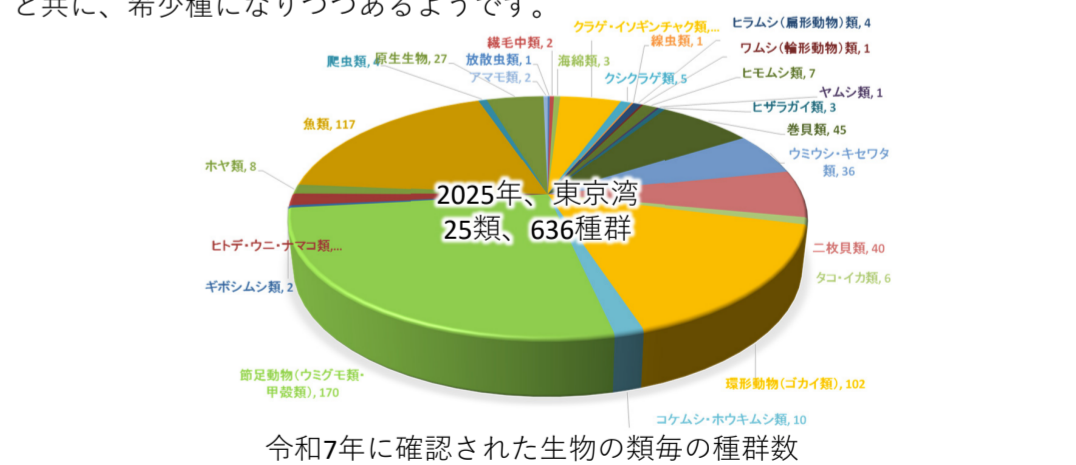
令和7（2025）年も全ての生物群について生物確認調査の対象種とし、ベントスと魚類のほか、プランクトンについても情報提供を依頼するとともに、青潮に関する情報を「青の潮り」として収集しました。

### 【R7（2025）年の調査結果抜粋】

12施設・団体から16の海岸、計24の報告があり、全体で636種群の出現報告がありました。2022年からの報告と合わせると、この4年間で952種群が確認されました。2021年に多摩川河口で確認されたシラウオは、2025年には葛西海浜公園でも確認され、東京湾での定住の可能性が高まっています。一方で、ムラサキガイの確認数はついに1報告となり、類似種のミドリイガイと共に、希少種になりつつあるようす。



報告された16海岸、24報告



令和7年に確認された生物の類毎の種群数

### 【今後の課題と展望】

2020年に始まった、限られた種群の確認調査が、東京湾における全ての生息生物に範囲が拡大され継続されることで、観察される種群数は、累計で1,000近くに増えてきており、湾内の生物相の変化の一端が見えてきています。しかし、その共通性や地域性を判断するためには、調査方法の見直しや継続した生物生息状況の追跡が必要であるとともに、関係者間の連携を強化し、情報共有の場を設けることが必要です。

本マップについてのお問い合わせ  
 編集事務局：環境省水・大気環境局海洋環境課環境管理室  
 〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 TEL: 03-5521-8317  
 協働事務局：東京湾再生官民連携フォーラム 東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム  
 海辺つくり研究会 古川 恵太(PT長) Email: furukawa@umibeken.jp Web: umibeken.jp/  
 発行：国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部海洋環境・危機管理研究室  
 〒239-0826 神奈川県横浜市長瀬3-1-1 Web: www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kaiyou1.htm